

# 包括的な支援を行うことによる効果

・企画段階から関わることによって、精度の高い見積を複数事業者から取得することができ、不要なカスタマイズの抑制や、過剰スペックの機器導入等を防ぐことができ、より精度の高い要求前審査を行うことができ、費用低減に繋がる。

・企画段階から支援することによって、必要な機能要件を深く理解することができ、設計段階での機能要件不足や機器構成のスペック不足等を未然に防ぐことができ、より精度の高いプロジェクト管理が可能となる。

企画

予算要求

仕様書  
作成

構築

運用保守

・業務分析(BPR)を実施し、情報システムを導入する上での最適な業務フローを構築することによって、各業務主管課抱える課題解決における最適なソリューションが導入でき、また、余計なカスタマイズ等を抑制することができることによって、費用低減効果が期待できる。

・幅広い事業者からRFIを行うことで特定事業者の特定機能に依存しないシステムが導入できる。競争性が担保され、システム費用の低減に繋がる。

・セキュリティポリシーや庁内LAN運用管理要綱等との整合性を事前に確認することによって、実現可能な情報システムを導入することができる。

・企画段階から支援することによって、情報システムの要件定義漏れを防ぎ、追加改修による、費用負担を防ぐことができる。

・より精度の高いセキュリティ要件を設定でき、情報セキュリティインシデントが発生を防ぐことができる。

・運用後の継続的な見直しを行うことにより、見直し結果を踏まえた、課題解決型のより価値のあるシステムにすることができる。

・運用保守の範囲を事前に事業者と折衝することによって、費用低減が図れる。



## 包括的な支援を行うことによって期待される効果

- 各業務主管課が抱える課題に対して、最適なソリューションを導入し、課題解決を図る。
- 企画段階から関わることによって、余計なカスタマイズや要件定義漏れ等を防ぎ、費用低減を図る。